

読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

井原市立稲倉小と、笠岡市立北木小の児童が、インターネットのビデオ会議システムで互いの教室をつないだ交流授業に取り組んでいます。記事を読み、質問に答えましょう。

井原・稲倉小と笠岡・北木小 ネットで教室接続



オンライン会議システムを活用し道徳の交流授業に臨む児童＝稲倉小

井原市立稲倉小（同市下稲木町）と笠岡市立北木小（同市北木島町）の低学年児童が、インターネットのビデオ会議システムで互いの教室をつないだ交流授業に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染拡大で学校生活に制約が生じる中、他校児童との交流に新たな楽しみを見いだしてもう狙い。（岸本渉）

一緒に授業「楽しい」

交流授業は、稲倉小で昨年度、1年生のクラスを担当した教諭が今春、北木小に異動したのをきっかけに、北木小側が企画。児童の多様な意見が授業内容に生かせるとして、「道徳」で実施することにした。稲倉小2年生7人と、北木小の1、2年生3人が8月からこれまでに4回、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を活用して一緒に授業を受けている。

児童 多様な意見発表、交流

14日の授業は、学校近くの路上に落ちていた鍵の対応を巡り、学校に戻って先生に預けるか、見過ごして児童館の映画鑑賞会へと急ぐかで2人の男児の心が揺れ動く様子を描いた教科書の題材を基に、男児の気持ちを考えた。両校の児童は男児の顔が描かれたカードを手にかメラに向かい、「鍵をなくした人が困っていると思う」「学校に戻ったら映画に遅れてしまう」などとそれぞれが推測した男児の気持ちを発表し合っていた。稲倉小2年生佐藤愛莉妙さん（7）は「人数が多い方がにぎやかで楽しい」と話していた。

今後は国語科を含め11月までに3回の授業で会議システムを使うことにしている。担任の太田美世教諭は「少人数編成のクラスでは意見が偏りがち。他校児童の参加によりさまざまな解釈や考え方に触れることができ、意義深い」としている。

遠くにいる友達とまるで同じ教室にいるみたいだね



9月22日付、山陽新聞笠岡・井原・浅口圏版

Q1 ★★★★★

稲倉小と北木小はなぜ、インターネットで互いの教室をつないで授業を行っているのでしょうか。第1段落から読み取りましょう。

Q2 ★★★★★

この授業について、児童はどのように思っていますか。また先生はどのように感じていますか。第4、5段落を読んで答えましょう。

Q3 ★★★★★

コロナ禍では、インターネットをうまく活用して、遠くに住む人同士が一緒に楽しむイベントなどが増えています。皆さんなら、どこに住むどんな人とネットでつながって、何をしてみたいですか。周りの人と話し合いませんか。

★の数は問題の難易度を表しています。